

# データで読む 地域再生

## 農業「6次化」2兆円超え

高付加価値化で挑む。関連記事を地域経済面に）  
 1次産業の農業を2次産業の製造業、3次産業の小売りや飲食、観光など総合的に進めるのが6次産業化だ。「1×2×3＝6」となるように付加価値を高める狙いがある。  
 農業者が農産加工品の製造・販売や地域資源を生かした観光などを一体的に進める「6次産業化」が拡大している。6次化による年間売上高は10年前より2割強増え、過去最高の2兆1765億円となった。最も伸びた栃木県は農泊などを通じて訪日客も取り込んでおり、高齢化や人手不足が続いた。

### 加工・直売・観光を一体に

農業6次化の売上増減率



(注)2022年度を12年度と比較、出所は農林水産省「6次産業化総合調査」



栃木県は農村に宿泊し農泊の普及に力を入れて農作業や食事を楽しむ。修学旅行などで利用

### 栃木・大田原「農泊」、訪日客も

訪日客の参加を粘り強く説き、売り上げは10億円を超え、6次化に貢献できる人材の育成に力を入れている。

「どんな場所でも観光客が来る」と、同市や大田原市は年間約1億円の売り上げを誇る。道の駅の来場者も23年度は180万人に達し、売り上げは10億円を超え、6次化に貢献できる人材の育成に力を入れている。

国内の農業総産出額は約9兆円で横ばい状態が続く。原料やエネルギーといったコスト上昇もあって農家を取り巻く環境は厳しく、6次化への期待は高まる。

農業経営に詳しい東京農業大学の堀田和彦教授は「農業離れに歯止めをかけるためにも、6次化などによる生産者の所得向上が不可欠だ」と強調。「農作業などに追われて新たな事業にまで手が回らない生産者も多い。自治体はノウハウのある人材の派遣など積極的に支援してほしい」としている。

(瀬口威弘)

されてきたが、訪日客の関心も高まっていることを見守った。4月には長らく農政に携わってきた元県職員を「農村プロデューサー」に任命。訪日客対応のマニュアル作りなどで伴走支援する。

県が今後のモデルとするのが大田原市だ。周辺地域の農家が農泊を受け入れており、農家と協力して整備した古民家ホテルもある。農水省が全国40カ所を対象とした「農泊インバウンド受入促進重点地域」にも選ばれている。

「どんな場所でも観光客が来る」と、同市や大田原市は年間約1億円の売り上げを誇る。道の駅の来場者も23年度は180万人に達し、売り上げは10億円を超え、6次化に貢献できる人材の育成に力を入れている。

国内の農業総産出額は約9兆円で横ばい状態が続く。原料やエネルギーといったコスト上昇もあって農家を取り巻く環境は厳しく、6次化への期待は高まる。

農業経営に詳しい東京農業大学の堀田和彦教授は「農業離れに歯止めをかけるためにも、6次化などによる生産者の所得向上が不可欠だ」と強調。「農作業などに追われて新たな事業にまで手が回らない生産者も多い。自治体はノウハウのある人材の派遣など積極的に支援してほしい」としている。

(瀬口威弘)